



— 2019年4月 —
**平和学研究科
 修士課程 開設**

研究科の概要

名称：平和学研究科平和学専攻（修士課程）
 取得学位：修士（平和学）
 入学定員：10名
 修業年限：2年
 設置場所：広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
 類似する研究科：
 恵泉女学園大学大学院平和学研究科、津田塾大学大学院国際関係学研究所、同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科

養成する人材像

- 平和学および関連する諸領域の基礎理論と研究方法を修得し、平和創造に向けて研究成果を世界に発信できる研究者。
- 平和創造に向けた国際公共政策を企画・立案できる国際機関職員、および国内の平和行政を推進できる公務員。
- 国際関係の分析手法を修得し、国内紛争・国際紛争の分析視点と平和創造の方法を提言できるジャーナリスト・マスメディア専門家。

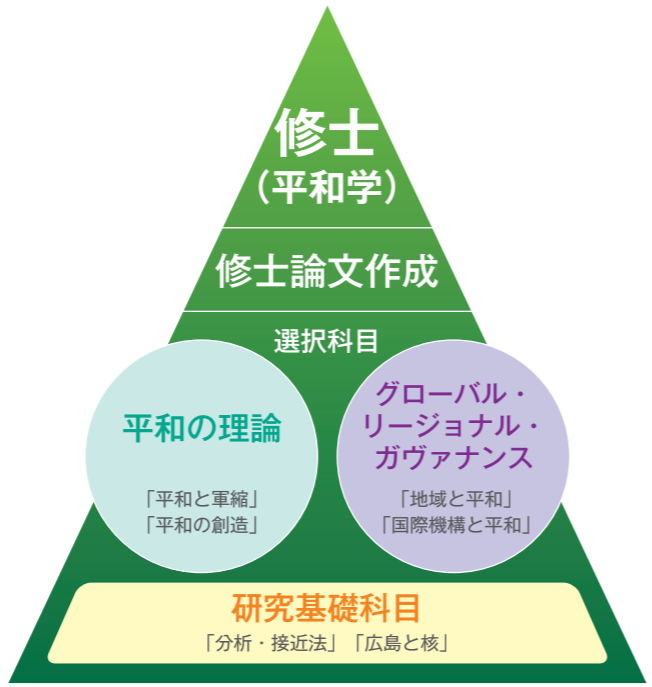
カリキュラムの特色

核戦争の脅威と悲惨さを学び、その上で、戦争と平和の歴史、およびこれまで人類が開発してきた平和創造の手法を修得することを目指します。これらを系統的に修得するため、授業科目を「研究基礎科目」「平和の理論」「グローバル・リージョナル・ガバナンス」の三つの科目群で構成し、それぞれの科目群をさらに小さな科目群に区分しています。

■研究基礎科目
 「分析・接近法」では現代社会の基本的な分析手法を学び、「広島と核」ではヒロシマの歴史と使命に基づき、被爆体験を軸としながら核の脅威を学びます。

■平和の理論
 国際政治学や国際法学を中心とした平和理論の関連科目から構成され、基本的アプローチとともに、グローバル化時代の諸問題の解決に有効な分析アプローチを学びます。

■グローバル・リージョナル・ガバナンス
 アジア、特に東アジア地域研究の関連科目を中心とした科目から構成され、現代アジアの国際関係の構造および政治・ガバナンスの基本構造と人間の安全保障との関連を洞察することができる視座と分析能力を養います。



【授業科目の一例】
 平和学、グローバル・ガバナンス論、被爆の記憶、グローバル・ヒパクシャ、核軍縮と核軍備管理、国際人道法、平和構築論、グローバル・コミュニケーション論、韓国・北朝鮮外交と核問題、日本の平和・安全保障政策、地域機構と平和・安全保障、予防外交論

●最新の情報は広島市立大学のウェブページをご覧ください
<https://www.hiroshima-cu.ac.jp/department/c00002162/c00006584/peacestudies/>



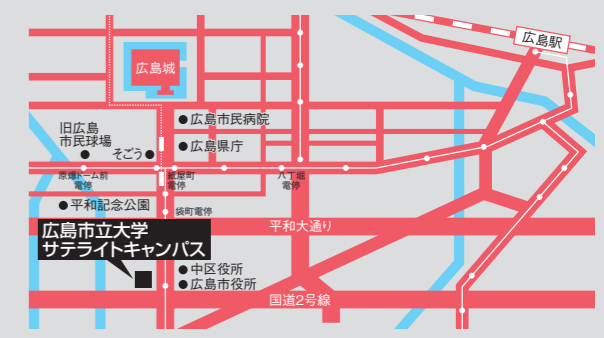
ヒロシマ平和セミナー2018
**平和と戦争の紛争を
 考える視座**

2018年
とき 8/24金 - 25土
**ところ 広島市立大学 サテライトキャンパス
 セミナールーム**
 広島市中区大手町4-1-1 大手町平和ビル9階

広島平和研究所が、被爆地・広島市の歴史的な背景を重視し、学術研究、教育活動等を通じて、国際社会の諸問題の解決や世界平和の創造に寄与すべく広島市立大学に設置されてから、今年で20年を迎えます。本研究所は、来年4月に開設される大学院「平和学研究科」において中心的な役割を担います。こうした記念すべき機会を捉えて、今年のセミナーでは、大学生、大学院生、公務員、メディア関係者を対象に、本研究所の教員による連続講義を実施します。

講義では、「平和と戦争（紛争）を考える視座」を全体テーマに掲げ、各教員がそれぞれの専門の立場、切り口から問題にアプローチします。1日目は「歴史と社会」、2日目は「法と政治」という角度から論じ、受講者に平和創造のための分析視点やヒントを提供します。

※募集要項については、別紙をご参照ください。
 ※講義名が英文で記されているものは英語による講義です。
 ※講義タイトル、講師などプログラムは変更されることがあります。



JR広島駅南口から
 〈市内電車〉1号線で「市役所前」下車
 〈広電バス〉①番乗り場から3または13号線で「市役所前」下車
 〈広島バス〉②番乗り場から21または51号線で「市役所前」下車

8月24日(金)

開 会

13:00

第 I 部 歴史と社会



原爆体験と戦後日本

広島市立大学広島平和研究所教授 直野 章子 (なおの あきこ)

兵庫県西宮市出身。1994年にアメリカン大学(米国)を卒業後、1995年、同大学で広島市と原爆展を開催。カリフォルニア大学大学院サンタクルーズ校に進学し、2002年に社会学博士号取得。日本学術振興会特別研究員(PD)を経て2005年から九州大学大学院比較社会文化研究院准教授を務めた後、2016年10月、広島平和研究所に着任。単著に『ヒロシマ・アメリカ』(渓水社、1997年、第3回平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞)、『原爆の絵』と出会う』(岩波書店、2004年)、『被ばくと補償』(平凡社、2011年)、『原爆体験と戦後日本』(岩波書店、2015年)、共著に『Toward a Sociology of the Trace』(Minneapolis, Minnesota: University of Minnesota Press, 2010) などがある。

13:10 14:05



Beyond Hiroshima and Nagasaki: The History of 2,000 Nuclear Weapon Tests and Global Hibakusha

Professor, Hiroshima Peace Institute, Hiroshima City University Robert Jacobs (ロバート ジェイコブズ)

Dr. Jacobs is a historian of nuclear technologies and radiation technopolitics. He was born in Florida, USA in 1960 and obtained his Ph.D. from the University of Illinois in 2004. He joined the Hiroshima Peace Institute in October 2005. He is the author of *The Dragon's Tail: Americans Face the Atomic Age* (Amherst, MA: University of Massachusetts Press, 2010) and the editor of *Filling the Hole in the Nuclear Future: Art and Popular Culture Respond to the Bomb* (Lanham, MD: Lexington Books, 2010). He is the co-editor of *Images of Rupture in Civilization Between East and West: The Iconography of Auschwitz and Hiroshima in Eastern European Arts and Media* (Heidelberg: Universitätsverlag Winter, 2016) and *Reimagining Hiroshima and Nagasaki: Nuclear Humanities in the Post-Cold War* (New York: Routledge Press, 2018).

14:10 15:05

休 憩



ドイツの平和運動史と日本

広島市立大学広島平和研究所准教授 竹本 真希子 (たけもと まきこ)

1971年、茨城県生まれ。専修大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。ドイツ・オルデンブルク市カール・フォン・オシエツキー大学博士(政治学)。専修大学大学院社会知性開発研究センター・歴史学研究センター任期制助手を経て、2005年7月、広島平和研究所に着任。2017年4月より現職。専門分野はドイツ近現代史、平和運動・平和思想史。単著に『ドイツの平和主義と平和運動—ヴァイマル共和国期から1980年代まで』(法律文化社、2017年)、論文に“Nuclear Politics, Past and Present: Comparison of German and Japanese Anti-Nuclear Peace Movements” (*Asian Journal of Peacebuilding*, Vol. 3, No. 1, 2015) などがある。

15:15 16:10



戦争と責任をめぐる省察—東京裁判を素材として

広島市立大学広島平和研究所教授 永井 均 (ながい ひとし)

1965年、米国カリフォルニア州生まれ。立教大学大学院文学研究科博士課程後期課程満期退学。博士(文学)。専門分野は日本近現代史、特に日本・フィリピン関係史。関東学院大学、女子栄養大学、共立女子大学などの非常勤講師を経て、2002年4月、広島平和研究所に着任。2016年4月より現職。単著に『フィリピンと対日戦犯裁判』(岩波書店、2010年)、『フィリピンBC級戦犯裁判』(講談社、2013年、第25回アジア・太平洋賞特別賞)、共著に『日記に読む近代日本』第5巻(吉川弘文館、2012年)、*Transcultural Justice at the Tokyo Tribunal: The Allied Struggle for Justice, 1946-48* (Leiden/Boston: Brill, 2018) などがある。

16:15 17:10



平和友好条約締結40年の日中関係

広島市立大学広島平和研究所准教授 徐 顕芬 (ジョ ケンファン)

中国・浙江省出身。早稲田大学大学院政治学研究科にて博士号(政治学)取得。早稲田大学アジア研究機構現代中国研究所講師、華東師範大学(中国)歴史学部教授などを務めた後、2017年4月、広島平和研究所に着任。専門分野は日中関係史、東アジア国際関係論、国際協力論。単著に『日本の対中ODA外交—利益・パワー・価値のダイナミズム』(勁草書房、2011年)、共編著に『東アジアにおける二つの「戦後」』(国際書院、2012年)、共著に『東アジアのなかの日本と中国—規範・外交・地域秩序』(晃洋書房、2016年)、『冷戦変容と歴史認識』(晃洋書房、2017年) などがある。

17:15 18:10

8月25日(土)

第 II 部 法と政治



朝鮮半島の非核化への道筋

広島市立大学広島平和研究所准教授 孫 賢鎮 (ソン ヒョンジン)

1971年、韓国釜山市生まれ。2006年、神戸大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(公共関係法)。韓国統一部事務官(北朝鮮人権、拉致問題担当)、韓国法制研究院研究員を経て、2014年4月、広島平和研究所に着任。専門分野は国際法、北朝鮮問題。共著に『なぜ核はなくなるのかII』(法律文化社、2016年)、『核の威嚇にどう対処すべきか—北東アジアの非核化と安全保障』(法律文化社、2018年)、論文に「金正恩体制下の北朝鮮—核と拉致問題を中心に」(『広島平和研究』第2号、2015年)、「朝鮮半島情勢—北朝鮮のミサイル開発」(HPI研究報告書、2017年) などがある。

9:00 9:55



Conflict and Cooperation in Southeast Asia

Professor, Hiroshima Peace Institute, Hiroshima City University Narayanan Ganesan (ナラヤナン ガネサン)

Dr. Ganesan specializes in Southeast Asian politics. He was born in Malaysia in 1958. He received his Ph.D. from Northern Illinois University in 1989 and joined the Hiroshima Peace Institute in January 2004. His teaching and research interests are in areas of intrastate and interstate tensions in the region. From 2011 to 2013 he held a concurrent invited Visiting Professorship at the National Graduate Institute for Policy Studies (GRIPS) in Tokyo to teach a postgraduate module. Prior to his current appointment he served as Senior Lecturer in Political Science and Southeast Asian Studies from 1990 to 2003 at the National University of Singapore. He has authored and edited 10 books and more than 70 internationally refereed book chapters and journal articles.

10:00 10:55



変動する国際秩序と主権国家—ポスト・ソ連諸国を題材に

広島市立大学広島平和研究所教授 湯浅 剛 (ゆあさ たけし)

1968年、埼玉県生まれ。上智大学大学院外国語学研究科博士後期課程満期退学。在デンマーク日本大使館専門調査員、防衛庁防衛局防衛政策課部員、防衛省防衛研究所主任研究官などを経て、2015年4月より現職。北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター共同研究員、東洋文庫客員研究員などを兼務。単著に『現代中央アジアの国際政治—ロシア・米欧・中国の介入と新独立国の自立』(明石書店、2015年)、共編著に『平和構築へのアプローチ—ユーラシア紛争研究の最前線』(吉田書店、2013年)、共著に『ロシア革命とソ連の世紀3—冷戦と平和共存』(岩波書店、2017年) などがある。

11:00 11:55

昼 休 憩



国際人道法の発展と核兵器禁止条約

広島市立大学広島平和研究所准教授 福井 康人 (ふくい やすひと)

1964年、兵庫県生まれ。2013年、パリ第1大学法科大学院修了。博士(法学)。1987年に外務省入省後、人権難民課、軍備管理軍縮課、国際組織犯罪室、国際平和協力室、軍縮会議日本政府代表部、在ルーマニア日本大使館、南山大学外国語学部(客員教授)などで勤務。2015年3月に外務省を退職し、同年4月より現職。単著に『軍縮国際法の強化』(信山社、2015年)、共著に『軍縮・軍備管理』(志学社、2017年)、論文に“CTBT: Legal Questions Arising from Its Non-Entry into Force Revisited” (*Journal of Conflict & Security Law*, Vol. 22, No. 2, 2017, Oxford University Press) などがある。

13:00 13:55



国際社会における武力行使の国連による規制を考える—国際法の観点から

広島市立大学広島平和研究所教授 佐藤 哲夫 (さとう てつお)

静岡県浜松市出身。1955年生まれ。一橋大学法学部卒業、同大学院法学研究科修士課程修了後に、フルブライト奨学生としてフレッチャー法律外交大学院(米国)にて法律外交修士の学位を取得。博士(法学、一橋大学)。一橋大学法学部助手、専任講師、助教授、教授、同大学院法学研究科教授を経て、2018年4月より現職。専門分野は国際法、国際組織法。単著に『国際組織の創造的展開』(勁草書房、1993年、同書の基となった論文にて安達峰一郎記念賞を受賞)、*Evolving Constitutions of International Organizations* (The Hague: Kluwer Law International, 1996)、『国際組織法』(有斐閣、2005年)、『国連安全保障理事会と憲章第7章—集団安全保障制度の創造的展開とその課題』(有斐閣、2015年) などがある。

14:00 14:55

閉 会

15:00 15:10